

入選

井上 七海 (いのうえ なな) 散田小 6年生

作品名：「相棒との絆」ドッグポリスを読んで

図 書：ドッグポリス 奇跡の警備犬ものがたり

ある日、警備部に移動することになった早川勇作。勇作が警備部にいくと、そこには、犬と「MPD」の文字が入った Tシャツを着た人がいた。犬が得意ではない勇作に、教育係の水野が不満をもちながらも訓練を指導する。そんな勇作の相棒、ドーベルシェパードのシロ。

警備部の仕事は、事件の発生を未然に防ぐこと。そのために訓練をしなければいけないのだが、言う事を聞いてくれなく苦勞する。だんだんと心が通じ合った勇作とシロは、連続爆破事件の爆弾捜索へ行き、命の危険をおかしても犯人をつかまえた。

このお話では、大事なことはお互いを信じることだと、勇作とシロを通して学ぶことができます。また、人の命を守るために人と協力し行動すること、犬と言葉では話せないが心が通じ合い協力できることを学ぶことができました。初めは言う事を聞かない犬でも、毎日一緒に寝て、訓練し、遊んで、コミュニケーションをとることで心が通じ合い、絆が生まれるのだと思います。文章に、「犬だって人間と一緒に。性格が違えば好きなものも違う。絆を深める方法もひとつじゃない」

「人と犬との絆。ゆるぎない信頼関係」とありますが、家族や恋人に接しているように、犬にも接すると必ず「絆」が生まれるはずですが、絆は目に見えないし、信頼関係などよく分からない、という人もいると思います。このお話は、警備犬と勇作の物語なので目指すところは同じ、立派な警察になることです。同じ夢に向かって、毎日一緒に暮らしていれば「絆」や「信頼関係」など分からなくても、自然とできているのではないのでしょうか。

私は犬を飼っていませんが、ハムスターを二匹飼っています。他のペットでも同じですが、「ずっと一緒にいたい」という夢をもち、家族として一緒に暮らしていると、自然と心が通じ合い、絆が生まれます。始めに挙げたように、大事なことはお互いを信じることだと思います。言葉が通じなくても、お互いを信じ合えばゆるぎない「絆」が生まれ、心を通じ合わせることでできると勇作とシロを通じて学び、心を動かされました。犬に限らず私の飼っているハムスターや学校の友人など様々な人や動物と協力し、シロと勇作のような心の通じ合いをしたいです。